東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１２年3月９

夫婦の相互に対する責任

親愛なるムスリムの様

家族という存在は預言者アーダムさま以来あり続けたものです。人を他の被造物から区別する最大の特徴は集団で生きること、そして家族というしくみを持って生きることです。家族は、平安、安穏、幸福を支える最も小さな社会的組織なのです。だから私たちの教えは家庭を築くこと、つまり結婚することを奨励しています。これは人間の本質が要するものであることも明らかにされています。社会の安定、世代の継続のために結婚と家庭をしっかりした基盤の上に築くことを命じています。

家庭の基盤は愛情と寛容の上に成り立ちます。事実クルアーンで「またかれがあなたがた自身から、あなたがたのために配偶を創られたのは、かれの印の一つである。」（ビザンチン章 30/21）と言われています。互いに愛情や敬意の結びつきを持ち、同じ信仰、同じ考え、感情を分かち合い、自分の責任を果たす人々で成り立つ家族は安らぎに満ち、幸福となります。家族の幸福が続くためには、お互いへの献身と寛容が必要です。結婚と家庭は重大な問題であり、主教的、道徳的、社会的な意味で継続を要する存在です。この継続が揺るがされることは、社会の安定の喪失と混乱をもたらします。

夫婦の間には、互いに対する権利があります。預言者さまは次のように仰せられています。「注意してください。あなた方は女性に対し、女性もあなた方に対し権利を持っているのです。」と言われました。この権利のうち最も重要なものは相互の敬意と愛情です。

さらに、夫が家族の糧を合法な手段で確保すること、妻に対し優しく穏やかに振る舞うこと、粗野で傷つけるような態度に出ないことが必要です。女性も夫に愛情と敬意をもつこと、家庭において宗教的、道徳的な責任を夫が果たす際にそれを支えること、家庭に強く結びついていること、純潔さを注意深く守ることもその責任の一部です。家族の一員として当然、両親や子供たちの間でもいくつかの役割、責任があります。

子供をしつけること、彼らに対し道徳的によい模範となること、子供に宗教的、道徳的役割を教えること、子供を愛すること、世話をすること、子供たちを公平に扱うことは良心の役割であり、責任です。さらに、糧を確保できる職業を身に着けさせること、結婚適齢期になれば彼らを適切な相手と結婚させることにも責任を持ちます。子供たちの両親に対する役割と責任は、両親に対しよく振る舞うこと、経済的な困難さがあれば助けること、彼らに対し笑顔と優しい言葉で接すること、彼らの望みを、アッラーに従わないものでないかぎりは聞き届けること、老人になれば彼らに奉仕すること、死んだ場合は彼らを慈悲と共に思い起こすこと、遺言を守ること、その親友によく振る舞うことです。

今日のフトバをクルアーンの言葉とハディースで締めくくります。「あなたがた信仰する者よ、人間と石を燃料とする火獄からあなたがた自身とあなたがたの家族を守れ」（禁止章 66/6）「あなた方のうち最も尊いのは、家族に対し最もよく振る舞うものである」